

キノコ工場火災:男性4人が死亡…苫小牧「ホクト」

2015年04月26日 「毎日新聞記事から抜粋」



激しく黒煙を噴き上げるホクト苫小牧きのこセンター＝北海道苫小牧市あけぼの町で

- 26日午前11時半ごろ、北海道苫小牧市あけぼの町5のキノコ生産会社「ホクト」（本社・長野市）の苫小牧きのこセンター工場から出火、3棟のうちブナシメジを生産する第1センター（鉄骨2階建て、延べ約1万4800平方メートル）の冷却室付近を中心に約3650平方メートルを焼き、約8時間後にほぼ消し止めた。焼け跡から男性4人の遺体が見つかった。道警苫小牧署は、冷却室で作業中だった配管工事関係者とみている。

配管工事元請けの長野市の設備会社「マツハシ冷熱」によると、死亡した4人は40～60代とみられ、札幌市東区東苗穂の設備会社「東（あずま）冷機工業」の従業員らが含まれるという。

ホクトの本社管理本部や道警などによると、工場はこの日、操業しておらず、作業員ら6人が工事をしていた。高温殺菌したキノコ培地（コーンコブミール）を冷却する装置に充填（じゅうてん）されているフロンを取り換えるため、うち4人が冷却室で配管の溶接作業をしていた。室内で断熱材の発泡ウレタンが激しく燃えていたという。他の2人は工場の外にいて無事だった。

ホクトは1964年に創業したキノコ生産販売の国内最大手。生産拠点は北海道から九州まで19カ所ある。苫小牧きのこセンターは95年に開設された。

ホクトの工場を巡っては、宮城県古川市（現大崎市）で98年4月、建設中のきのこセンターから出火し、作業員1人が死亡し16人がやけどをした。【野原寛史、坂本智尚】毎日新聞社